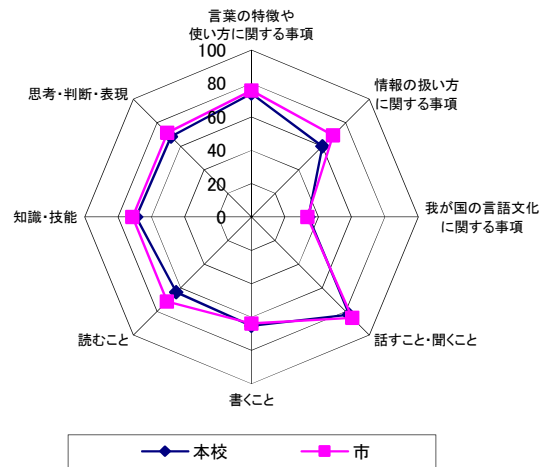


宇都宮市立海道小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.0	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	60.0	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	34.3	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	82.9	85.5	86.5
	書くこと	65.2	63.9	65.8
	読むこと	63.8	71.6	69.5
観点別	知識・技能	69.1	71.3	72.9
	思考・判断・表現	68.2	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

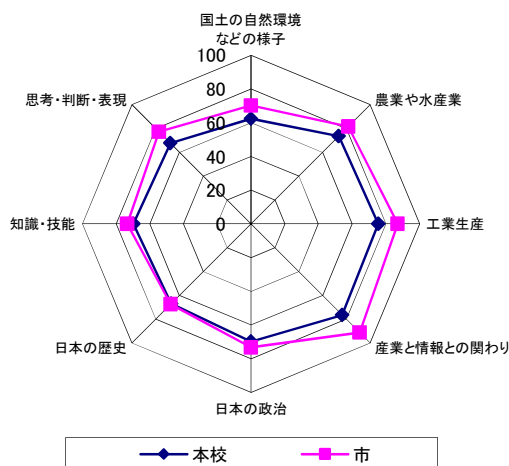
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は74.0%で、市の平均を1.8ポイント下回った。</p> <p>○第5学年で配当されている漢字を正しく書く問題では、3問とも市の正答率を上回った。特に、送り仮名がついた漢字の書き取りでは、市の正答率を5ポイントほど上回った。</p> <p>●三字の熟語の成り立ちを理解しているかを問う問題では、市の正答率を7ポイントほど下回った。</p> <p>●第6学年に配当されている二字熟語を読む問題では、市の正答率を8ポイントほど下回った。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書きでは、テストや自主学習において繰り返し復習させることで、普段から使えるように基礎的な力を伸ばしていく。 ・既習事項は身に付いているので、新たに学習する語彙についても理解が深まるように、漢字ミニテストを実施するなどして語彙力を身に付けさせたい。 ・熟語の成り立ちについては、教科書の問題だけではなく、ドリル学習などで定着を図っていきたい。
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は60.0%で、市の平均を9ポイントほど下回った。</p> <p>○原因と結果など情報と情報との関係について、理解しているかを問う問題の正答率が、市の正答率を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、新聞記事や図書資料、インターネットなどから様々な情報に触れる機会を増やし、必要な情報を読み取ったり情報をもとに自分の考えをまとめて文章を書いたりする学習を通して、情報を整理する力を育てていく。 ・授業で扱う文章を読むときでも文脈の中から、原因や結果を見出せるような力を付けていく。
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は34.3%で、市の平均をわずかに上回った。全体的な正答率も3割程度と低かった。</p> <p>●語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語についての理解を問う問題の正答率が、市の平均より0.8ポイントほど高かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・語句について学習する際には、その由来や背景を捉えさせたり、生活と結び付けて考えさせたりすることで、知識・技能の定着を図っていく。 ・外来語や和語、漢語の学習については、身近な単語を例に、言葉の由来や背景を調べる活動を取り入れるなど、児童が興味をもって学べるような展開を工夫し、理解を促していく。
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は82.9%で、全体的には高い正答率だが、市の平均を2.6ポイント下回った。</p> <p>●インタビューを聞き、話の内容を捉える問題の正答率が91.4%で、市の正答率を6ポイントほど下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業だけでなく、学校生活の様々な場面で対話的な活動を取り入れ、相手の考えをよく聞くとともに、自分の考えを分かりやすく相手に伝えられるようにしていく。 ・学校での話し合い活動においても、事柄の順序など、話の組み立てを意識しながら、話の要点を聞くようにして、内容や意図を捉えられるようにしていく。
書くこと	<p>平均正答率は65.2%で、市の平均をわずかに上回った。</p> <p>○目的や意図に応じて、指定された条件や文字数で文章を書く問題の正答率は、市の正答率を13ポイントほど上回った。</p> <p>●目的や意図に応じて、書くことを選び、伝えたいことを明確にして簡単な文章を書く問題では、市の平均を10ポイントほど下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も作文や日記指導など、日常的に書く活動を積極的に取り入れ、書くことに対する抵抗感や苦手意識を軽減するための指導を継続していく。 ・授業の中でも様々な条件を提示しながら文章を書くことに取り組ませ、資料や記事を読んだ上で、その目的や意図に応じた文章を書けるように指導していく。
読むこと	<p>平均正答率は63.8%で、市の平均より8ポイントほど下回った。</p> <p>○説明文の問題で、叙述を基に文章の内容を捉える問題では、市の平均より4ポイントほど上回った。</p> <p>●説明文の文章全体の構成を捉える問題や、目的に応じて文章の情報を整理する問題では、共に市の平均を下回った。</p> <p>●物語文の登場人物の心情や様子について、描写を基に捉える問題では、共に市の平均を10ポイント以上下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の授業において、物語文を丁寧に読み取る活動を継続して行う。また、文中に書かれた内容を根拠にして人物像を具体的に想像したり、登場人物の心情を理解したりする活動を意図的に取り入れ、友達と考えを伝え合いながら考えを広げられるようにしていく。 ・朝の読書の時間や「家読」を積極的に推奨し、物語だけでなく、科学や説明文をはじめとした様々な分野の本に親しむ機会を増やしていく。 ・説明文の構成を学んだり、文書中の言葉を使って、筆者の意見をまとめたりする活動を通して、説明文の読解力を付けさせていきたい。

宇都宮市立海道小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	62.4	70.3	66.4
	農業や水産業	73.5	81.6	75.3
	工業生産	75.5	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	76.5	91.0	81.3
	日本の政治	69.9	73.2	75.3
	日本の歴史	66.9	67.4	68.5
観点別	知識・技能	69.9	73.5	72.5
	思考・判断・表現	67.6	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

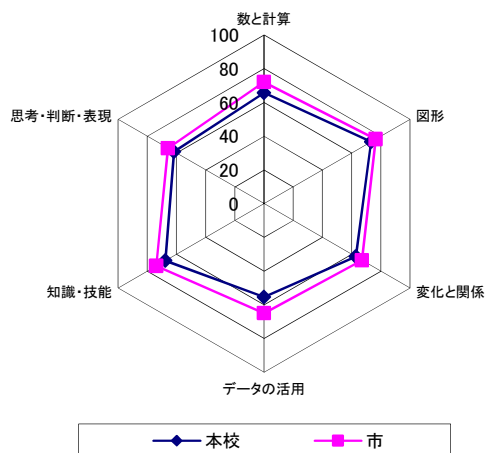
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は62.4%で、市の平均を7.9ポイント下回った。 ○赤道についての設問については、市の正答率と同じであるため一定の理解を示していると考えられる。 ●日本の周辺の海洋名を答える設問については、市の平均正答率を17.1ポイントと大きく下回った。	・「海洋名」はそれぞれ認識するのではなく、日本列島を囲み、「東西南北」を把握させてセットで覚えられるようにする。 ・「季節風」は「高気圧の位置」とセットで理解させるために、「夏は南東、冬は北西」という暗記では、時間が経つと逆転しがちなため、教科横断的に理科の「空気の性質」と結び付けて指導していく。
農業や水産業	平均正答率は73.5%で、市の平均を8.5ポイント下回った。 ●日本の食料生産については、どの設問にも市の平均正答率を大きく下回り、特に資料の読み取りに課題が見られる。	・自分たちの食生活と食料生産の課題を、食料自給率や食料確保の変化と結び付けながら調べたり、分かったことを自分の言葉でまとめたりすることで、理解を深められるようにする。
工業生産	平均正答率は75.5%で、市の平均を11.5ポイント下回った。 ●自動車の製造工程について理解していない所があり、日本の貿易の変化について、資料にあるグラフの読み取りに課題が見られる。	・自動車の製造工程を指導する際には、教科書だけでなく、動画を利用するなど、視覚的に理解できるように工夫していく。 ・グラフの読み取りについては、タイトルと単位の確認すること、「最大」と「最小」を見つけること、「逆転」や「急増・急減」を探ることなど、グラフ読解の型を指導していく。
産業と情報との関わり	平均正答率は76.5%で市の平均を14.5ポイント下回った。 ●インターネットで情報の発信と受信の注意点の理解について課題が見られる。 ●林業に関する学習内容の定着に課題が見られる。	・自分たちの生活に欠かせないインターネットやSNSについて、日常的に話題にしたり善悪の判断を問う機会を増やしたりすることで思考力や判断力を養えるようにする。 ・天然林と人工林の言葉の定義を教えるだけではなく、表を作り、「目的」と「人の手」をセットで整理させながら定着させていく。
日本の政治	平均正答率は69.9%で市の平均を3.3ポイント下回った。 ○法律ができるまでの流れについて資料から読み取る問題は、よく理解している。 ●税金の使われ方に関する学習内容の定着に課題が見られる。	・国民の権利と義務など、法や社会の仕組みに関する事柄を学校生活と結び付けて取り上げることで、実感を伴って学ぶことができるような授業展開を工夫していく。 ・租税教室など外部の指導者を入れて、公民的資質の育成に結び付けていく。
日本の歴史	平均正答率は66.9%で市の平均を0.5ポイント下回り、ほぼ同じと言える。 ○鎌倉時代と室町時代に関する設問に関しては、市の平均よりも高く、政治の仕組みや文化的側面に関して理解している。 ●安土桃山時代から江戸時代に関しては、全ての設問で市の平均よりも低く、武将が行った出来事や政治の仕組みの理解に課題が見られる。	・出来事が起こった年だけではなく、その理由や背景を考慮することで、思考力・判断力・表現力を育てるようにしていく。 ・基礎・基本の学力が定着するよう、振り返る場を計画的に設けて知識の構築を図るようにしていく。

宇都宮市立海道小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	65.7	72.1	74.6
	図形	73.3	76.5	76.1
	変化と関係	62.9	67.1	59.7
	データの活用	55.4	65.0	64.5
観点別	知識・技能	67.6	73.8	74.7
	思考・判断・表現	61.6	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

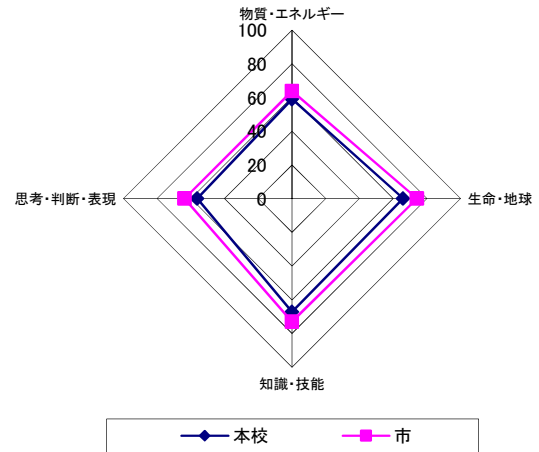
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は65.7%で、市の平均を6.4ポイント下回った。</p> <p>○小数第一位×小数第一位の計算の正答率は91.4%で、市の平均を11.6ポイント上回った。</p> <p>●約分が2回ある帯分数×帯分数の計算の正答率は、市の平均を18.1ポイント、約分のある真分数+真分数=真分数で、片方の分母にそろえる通分をする計算の正答率は13.8ポイントと、いずれも市の平均を下回った。</p> <p>●テープ図を用いて、分数倍の比較量や比較量が基準量の何倍になるかを求める式を選ぶ問題の正答率は、市の平均を9ポイント以上下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Aドリルや計算ドリルを活用し、朝の学習や家庭学習等で既習事項の復習を繰り返し行っていくことで、基礎・基本の確実な定着を図っていく。 ・分数は日常生活で目にする機会がほとんどないため、分数で表すことのよさや数の大きさの量感などを身に付けられるよう、生活に密着した課題や解く必然性のある課題を用意し、自分事として取り組めるようにする。 ・文章問題の題意を正しくつかみ、解決の見通しをもたせた上で、数直線や図に表しながら自分の考えを分かりやすくまとめたり説明したりする活動を多く取り入れていく。
図形	<p>平均正答率は73.3%で、市の平均を3.2ポイント下回った。</p> <p>○正多角形の中から点対称な図形を選ぶ問題の正答率は、市の平均を2.7ポイント上回った。</p> <p>●三角形の3つの角の和を理解し、2つの角の大きさから1つの外角の大きさを求める問題の正答率は、市の平均を9.5ポイント下回り、半径が与えられた円の面積を求める式を理解しているかの正答率は、市の平均を6.9ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの図形に関心をもたせ、日常生活と関連させたり、具体物やタブレット等を操作したりしながら、図形についての理解を深め、学習内容の定着に努める。 ・図形の性質を理解させ、それらを利用して角度を求めたり、面積や体積を求めるために必要な長さを見つけて公式にあてはめて課題を解決する力を身に付けさせていく。
変化と関係	<p>平均正答率は62.9%で、市の平均を4.2ポイント下回った。</p> <p>○基準量と割合から、比較量を求める問題の正答率は、市の平均を1.3ポイント上回った。</p> <p>●単位量あたりの大きさを求めて、どちらのセットの方が1冊あたりの値段が安いのか説明する問題の正答率は、市の平均を12.6ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単位量あたりの大きさについて、日常生活の場面にあった問題等で見通しをもたせ、数直線や図を用いて考えたり、根拠を明確に説明したりする活動を多く取り入れたりすることで、理解を深めていくようにする。
データの活用	<p>平均正答率は55.4%で、市の平均を9.6ポイント下回った。</p> <p>●円グラフを正しく読み取る問題の正答率は、市の平均を25.3ポイント下回った。</p> <p>●値に0がある分離量の平均を求める問題の正答率は、市の平均を8.1ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の身の回りの事象から問題を見出し、様々な表やグラフ、ドット図などさまざまなデータの特徴や傾向に着目して適切な手法を選択し、正しく読み取る活動を多く取り入れ、データを分析する力をつけていく。自分事として問題を解決したり、解決の過程や結果を考察したりすることで、データを活用する力を養っていく。

宇都宮市立海道小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	59.0	63.8	61.6
	生命・地球	65.9	74.1	73.3
観点別	知識・技能	67.1	73.0	71.3
	思考・判断・表現	56.3	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>領域全体の平均正答率は59.0%で、市の平均を4.8ポイント下回った。</p> <p>○「物のとけ方」のろ過のしかたとして正しくないところを指摘できるかを問う問題では、市の平均を5.5ポイント上回った。</p> <p>●「水よう液の性質」の蒸発させたときに何も残らなかった水溶液には、気体が溶けていることを理解しているかを問う問題では、全国や市の平均を3ポイント以上上回ったものの、正答率が34.3%と低い正答率であった。</p>	<p>・「物のとけ方」「物の燃え方」「水よう液の性質」では、実験を行い問題を解決してきた。実感を伴った学習を行うことで、知識がより深まると考えられる。今後も児童が主体的に実験を行うことができるように、準備や操作が分かりやすい教材の工夫をしていく。</p> <p>・実験・観察から得られた結果を総合的に判断することにつまづきが見られる。得られた結果を大局的に見ることができるように、科学的なものの見方・考え方のポイントを、問題解決のプロセスの中で丁寧に説明し、結果から結論を導けるように順序立てた指導をしていく。</p>
生命・地球	<p>領域全体の平均正答率は65.9%で、市の平均を8.2ポイント下回った。</p> <p>○「月と太陽」の月の見える形が変わる理由を理解しているかを問う問題で、市の平均を3.8ポイント上回った。</p> <p>●「流れる水のはたらき」の浸食について理解しているかを問う問題で、市の平均を12.8ポイント下回った。</p>	<p>・「月と太陽」の学習では、実際の月の満ち欠けの様子に関心をもたせ、月と地球と太陽の位置関係を確かめる作図をしたり、動画を活用したりして学習したことが理解につながったと考えられる。理解や知識の定着が難しいとされる内容であるため、今後も児童の実態に合わせて、具体物やICTの活用、実験との関連付けを行い、学習の定着を図っていく。</p> <p>・現象を感覚的に理解していても、言葉を忘れてしまっている児童が多く見られた。授業で学んでから時間が経った後に改めて振り返ったり、別の単元の中での関連付けをするときに復習するなど、繰り返し既習事項にふれる機会を意図的に設け、確かな理解につなげていく。</p>

宇都宮市立海道小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えがもてるような学習活動の設定	・学習活動の中で、児童が興味・関心をもって取り組めるような言語活動の設定	学習と生活のアンケート調査の「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」に、多くの学年で市の肯定割合を下回った。また、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」には、ほとんどの学年で市の肯定割合を上回った。
読む力を高めるために、語彙力を高める指導を中心に、各教科や領域での言語活動の充実	・読書活動の充実 ・学年ごとに身に付けさせたい力の明確化 ・国語科を中心にした言語活動の充実 ・自分の考えをもつための考える時間の十分な確保	学習と生活のアンケート調査の「普段、一日にどれくらい本を読んでいますか。」に、低学年は市の回答時間を上回っているが、学年が上がるにつれて「読まない」の回答が増加した。また、3年生以上の質問「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる。」に、市の肯定割合を上回ったのは、3年生のみであった。
児童が自分で成長を実感できる振り返り活動の工夫	・自らの成長に目を向ける自己評価の実施 ・単元や内容のまとめりでの見通す・振り返り活動の重視	学習と生活のアンケート調査の3年生以上の質問「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。」に、4、5年生で市の肯定割合を上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・語彙力を高めるために学年ごとの必読書を設定し読書活動を推奨したり、朝の学習に週2回の読書の時間を設定したりしてきたが、児童質問紙の読書時間の回答は、低学年で10分～20分、高学年になるにつれて「ほとんど読まない」の割合が増加した。次年度は、必読書を教室配置にしてすぐに手に取れる環境にしたり、調べ学習などで図書資料を計画的に準備したりして、読書量を増やしていきたい。

・家庭学習について「1日どれくらい学習していますか。」という設問に対し、どの学年も本校で設定している時間以上取り組んでいると回答している児童が昨年より増えた。これは、本校で推奨してきた家庭学習が浸透している結果と考える。次年度も、さらに多くの児童が推奨時間以上になるよう保護者の協力を得ながら実践していくとともに、学習内容がより充実したものになるよう支援していきたい。

・国・県・市の調査結果で、国語「読むこと」の領域の平均正答率は、5年生で上回ったものの、4、6年生は、低い傾向にあった。国語の授業で物語文を丁寧に読み取る活動を継続していきたい。また、児童質問紙調査では、「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる。」には、5年生以外の学年で市の平均より低い結果であった。このことから、次年度は、言語活動をさらに充実させ、自分の意見を理由と共に述べる機会を増やしていくことや、学習や学習の振り返りの際に、自分の意見の理由が適切であるかなどを吟味して意見が言えるようにしていくことに注力したい。